



お米とき

富岡市立額部小学校 3年 半田 瑞季

「瑞季、いつものおねがいね。」とお母さんの声が聞こえます。私は「はいはい。」とお米をとぎます。私の家では夕ごはんは三合のお米をたきます。お米はカップにすり切り三回分です。お米に水を入れて少しまぜたら、白くにごった水をすばやくすてます。ここがポイントだとお母さんが言っていました。こんどは、ほとんど水のないじょうたいでお米をシャカシャカとやさしくとぎます。力を入れすぎてお米をつぶしてしまわないように、やさしく大きな円をかくようにとおそわりました。その後これを二回くり返し、そのたびに水を取りかえます。私の家では、お父さんがかためのごはんが好きなので、水の量はメモリの三より少し下にするのがルールです。

お米ときのお手伝いで一番大変なことは、冬のお米ときです。冬は水道の水がとてつめたいので、手がこおってしまいそうぐらいにつめたいです。だから時どき「しゅくたいをやっているから今はむり。」と言ってしまうことがあります。でも、お母さんはこれを毎日やっていると思うと本当にすごいなと思います。

それでも私はお米ときのお手伝いが大好きです。「今日のごはんは私がたいたんだよ。」と言うと、お父さんがとてもよろこんでくれ、「うまいなあ、瑞季がたいたごはんが一番おいしいよ。」と言ってくれるからです。なんだかほめられて、とてつめたくをした気持ちになれます。

おいしいごはんを食べていると、家族みんながしあわせな気持ちになれるし、家族がよろこんでくれることが私のしあわせでもあります。

だから私は、これからもお米ときのお手伝いをがんばりたいです。